

介護保険制度の施行状況等

(1) 要介護認定の状況等	… 1
(2) 介護サービスの利用状況	… 4
(3) 地域差	… 7
(4) 特別養護老人ホームへの入所	… 10
(5) ケアマネジメントの状況	… 12
(6) 介護サービス事業者の状況	… 14
(7) 介護保険財政の状況	… 16
(8) 介護予防等	… 18

要介護認定の状況

(1) 被保険者数の推移

- 65歳以上の被保険者は、2年半で約200万人増加（9%）

2000年4月末	2001年4月末	2002年11月末
2,165万人	2,247万人	2,364万人

(出典：介護保険事業状況報告)

(2) 要介護認定者数の推移

- 要介護認定を受けた人は、2年半で約115万人増加（52%）

2000年4月末	2001年4月末	2002年11月末
218万人	258万人	333万人

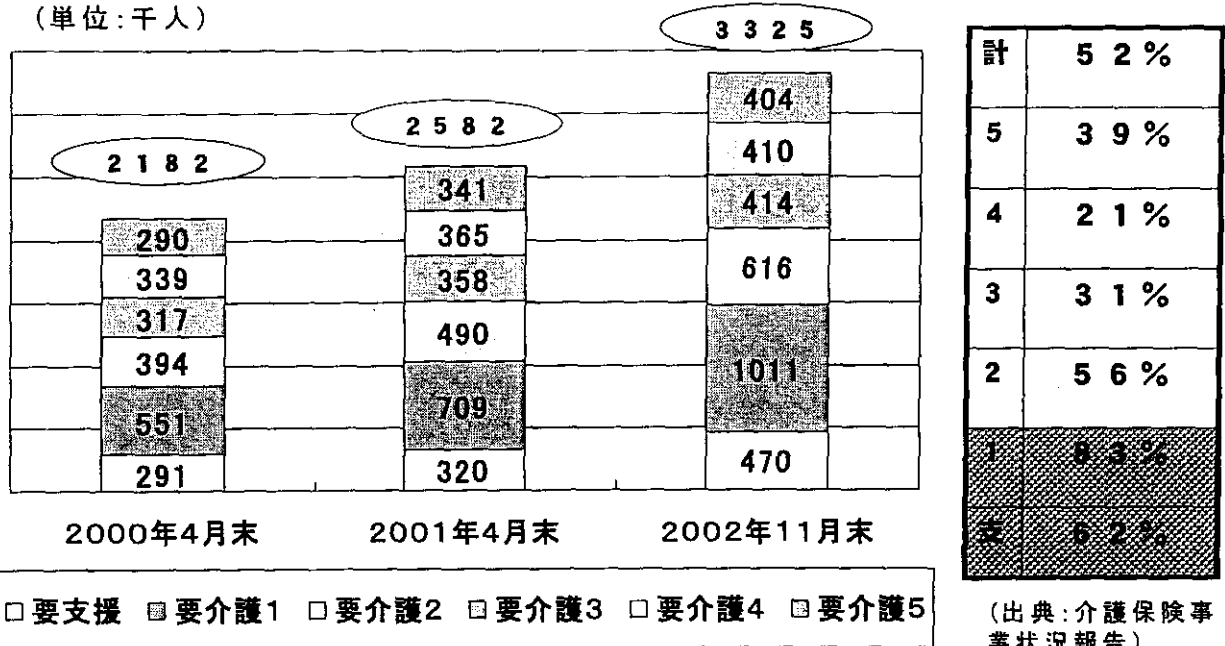
(出典：介護保険事業状況報告)

- 特に、要支援・要介護1の認定を受けた者が大幅に増加（76%）

(要介護度別認定者数の推移)

2000年4月末からの増加率

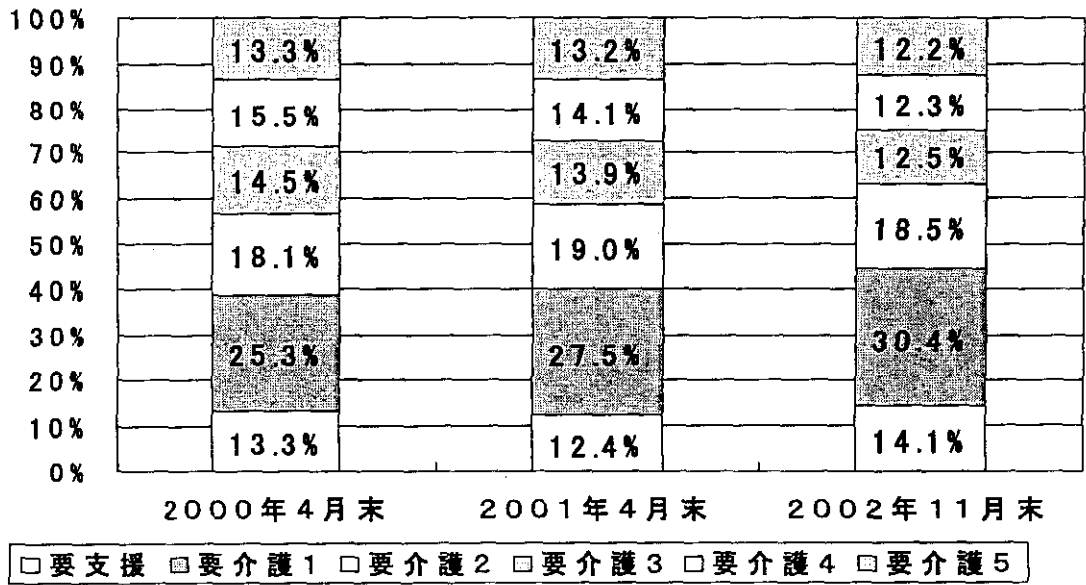
(単位：千人)



○ 要支援・要介護1の認定を受けた者の構成割合も増加

(2000年4月末: 38.6% → 2002年11月末: 44.5%)

(要介護度別認定者数の構成割合)



(出典: 介護保険事業状況報告)

(3) 認定率の推移

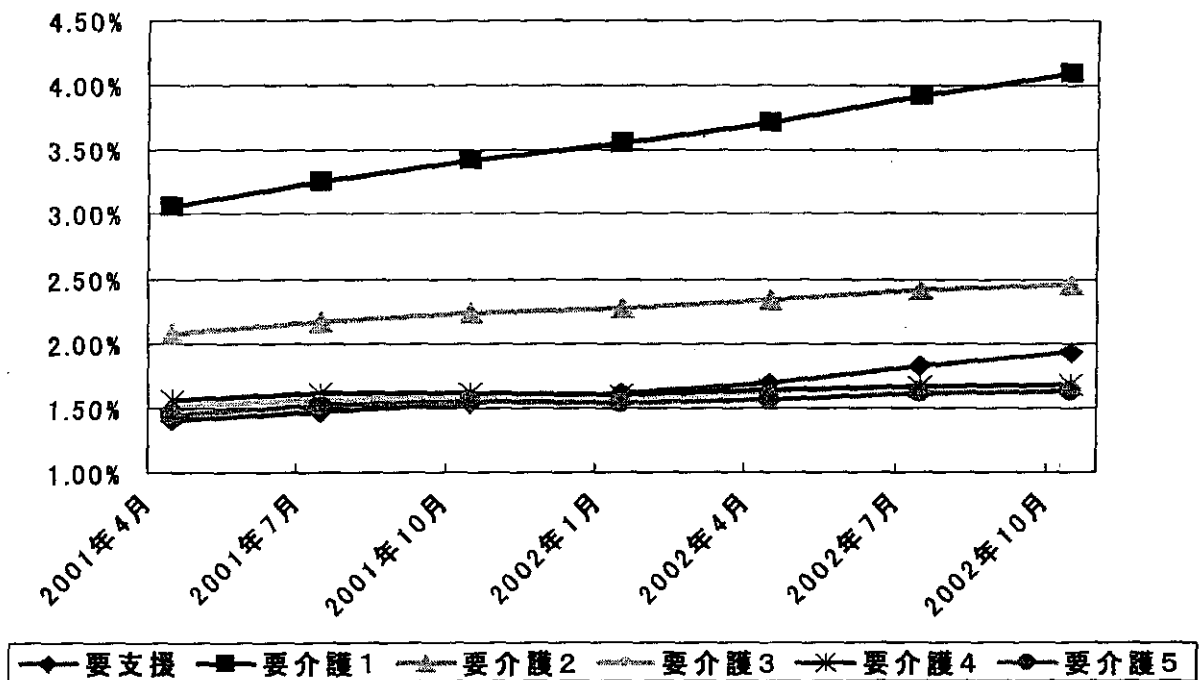
○ 軽度の認定率は引き続き上昇、重度はほぼ安定

(第1号被保険者に対する認定者の割合)

	2001年4月	2001年10月	2002年4月	2002年10月
要支援	1.41%	1.54%	1.70%	1.93%
要介護1	3.06%	3.43%	3.72%	4.09%
要介護2	2.07%	2.23%	2.34%	2.46%
要介護3	1.53%	1.58%	1.63%	1.68%
要介護4	1.57%	1.61%	1.64%	1.68%
要介護5	1.45%	1.55%	1.57%	1.63%
合計	11.09%	11.94%	12.58%	13.48%

(出典：介護保険事業状況報告)

(認定率の推移)



(出典：介護保険事業状況報告)

介護サービスの利用状況

(1) 介護サービス利用者数の推移

- 2年半で、居宅は93%、施設は36%、全体で73%の増加。
- 高齢化の速度（2年半で9%）を上回る速度で増加。

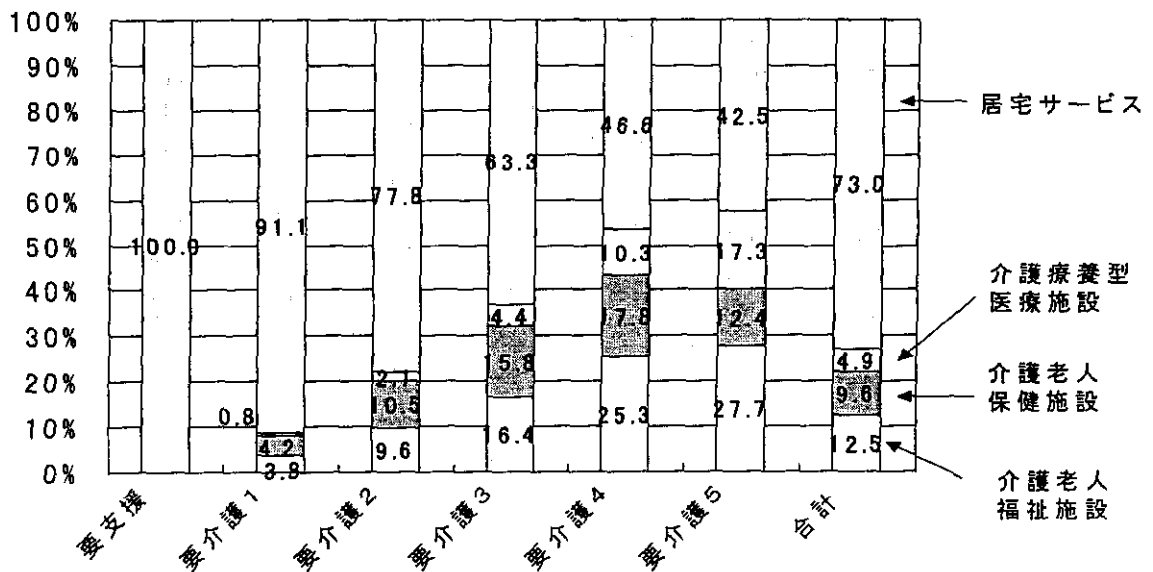
	2000年4月	2001年4月	2002年9月
居宅サービス	97万人	142万人	188万人
施設サービス	52万人	65万人	70万人
介護老人福祉施設	25万人	30万人	33万人
介護老人保健施設	19万人	24万人	25万人
介護療養型医療施設	7万人	11万人	13万人
合計	149万人	207万人	258万人

(出典：介護保険事業状況報告)

(2) 要介護度別のサービスの利用状況

- 要介護度が高いほど、施設サービスを利用する割合が高い。
要介護4・5については、利用者の半数以上が施設サービスを利用。

(要介護度別のサービスの利用状況)

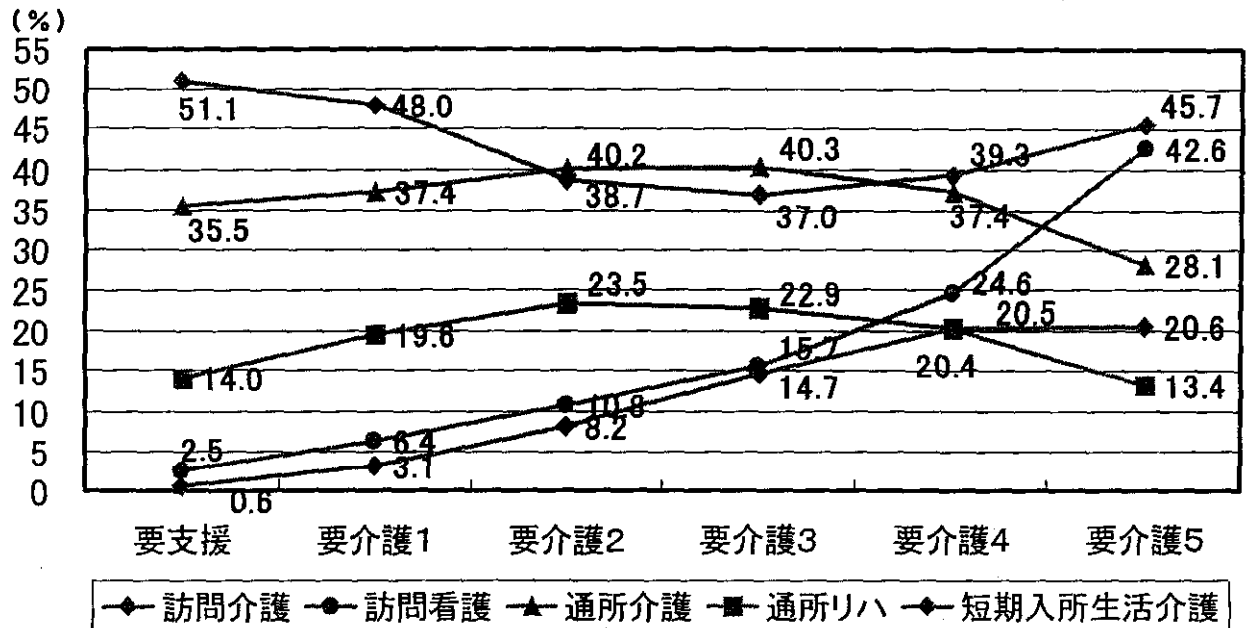


(出典：介護給付費実態調査月報(11月分審査分))

○ 訪問看護・ショートステイは、要介護度が高い利用者ほど多く利用。

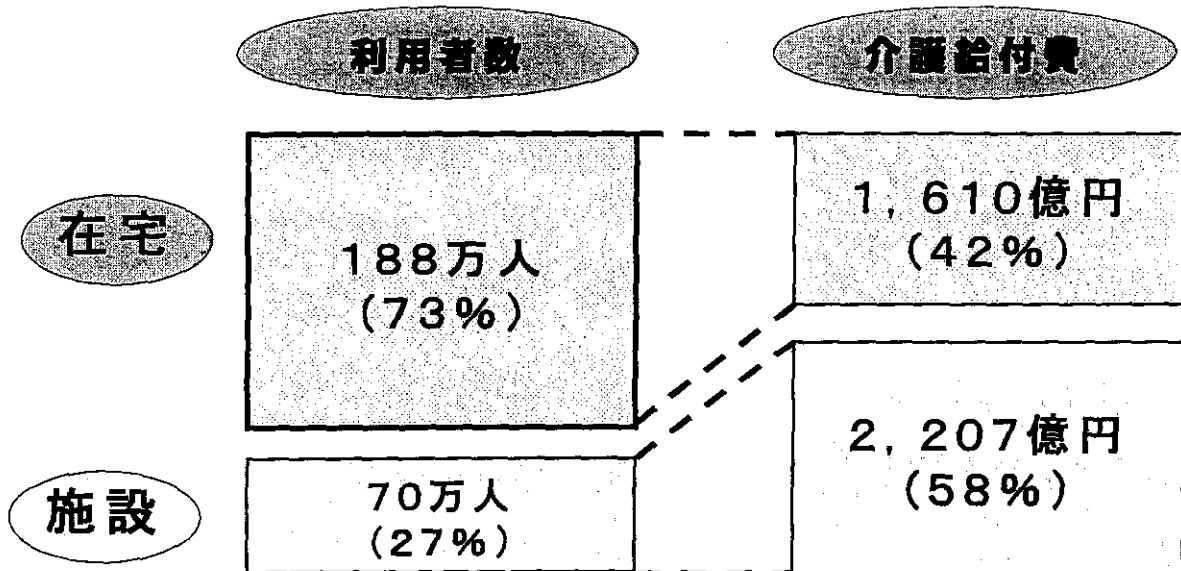
(要介護度別の居宅サービス利用者総数に占める

各サービス利用者の割合)



(出典:介護給付費実態調査月報(11月分審査分))

○ 利用者総数の約30%の施設サービス利用者数が、介護給付費の約60%を使用



(出典:介護保険事業状況報告(平成14年9月サービス分)、国民健康保険中央会調べ(平成14年9月サービス分))

サービス種類別の保険給付額(2002年9月サービス分)

サービス種類	保険給付額(億円)		構成割合
		対前年同月比	
在宅サービス計	1,610	29.0%	42.2%
訪問通所サービス(小計)	1,199	23.6%	31.4%
訪問介護	401	30.2%	10.5%
訪問入浴介護	39	12.2%	1.0%
訪問看護	87	9.2%	2.3%
訪問リハビリテーション	4	16.1%	0.1%
通所介護	361	25.6%	9.5%
通所リハビリテーション	226	10.9%	5.9%
福祉用具貸与	82	53.2%	2.1%
短期入所サービス(小計)	175	72.4%	4.6%
短期入所生活介護	136	78.8%	3.6%
短期入所療養介護(老健)	34	53.2%	0.9%
短期入所療養介護(病院等)	5	56.0%	0.1%
その他単品サービス(小計)	100	58.2%	2.6%
居宅療養管理指導	16	13.9%	0.4%
痴呆対応型共同生活介護	53	93.6%	1.4% (グループホーム)
特定施設入所者生活介護	30	42.1%	0.8% (有料老人ホーム等)
居宅介護支援	137	19.5%	3.6%
施設介護サービス計	2,207	7.5%	57.8%
介護老人福祉施設	971	5.1%	25.4%
介護老人保健施設	742	5.0%	19.4%
介護療養型医療施設	494	16.9%	12.9%
合計	3,817	15.6%	100.0%

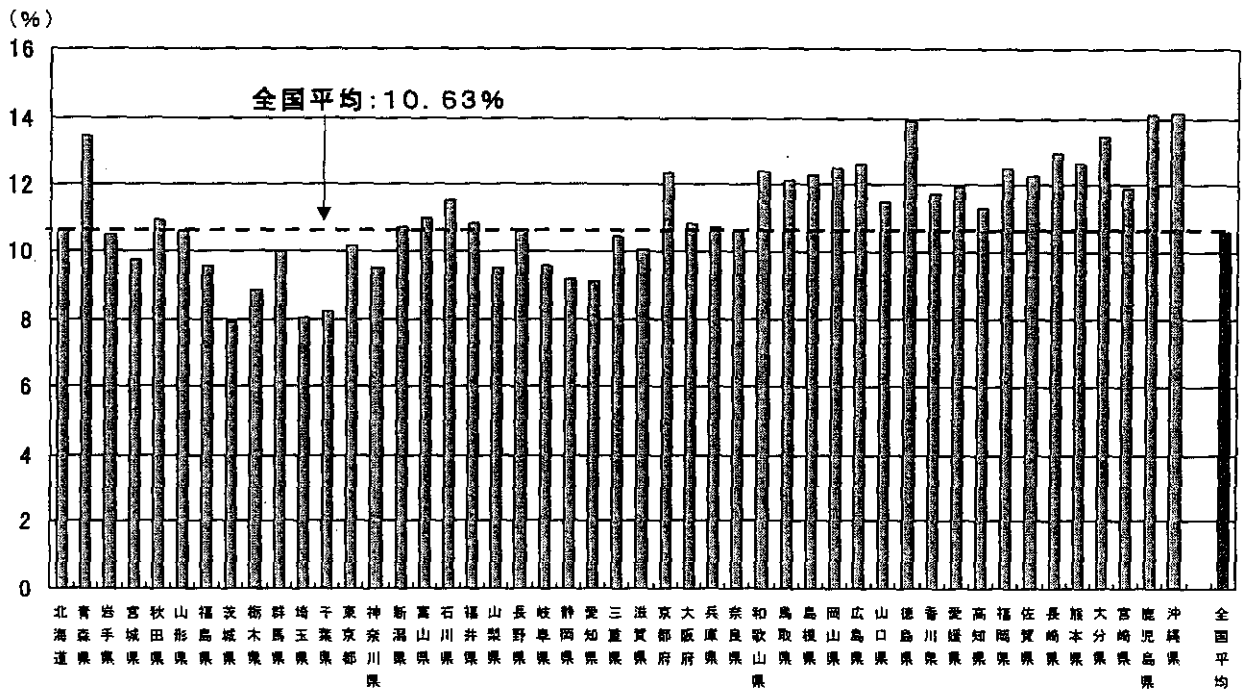
(国民健康保険中央会調べ)

(注1) 各国保連の支払実績を集計したもの。

(注2) 福祉用具購入費、住宅改修費などの市町村が直接支払う分は除く。

(注3) それぞれ記載の単位未満で四捨五入しているため、計に一致しない場合がある。

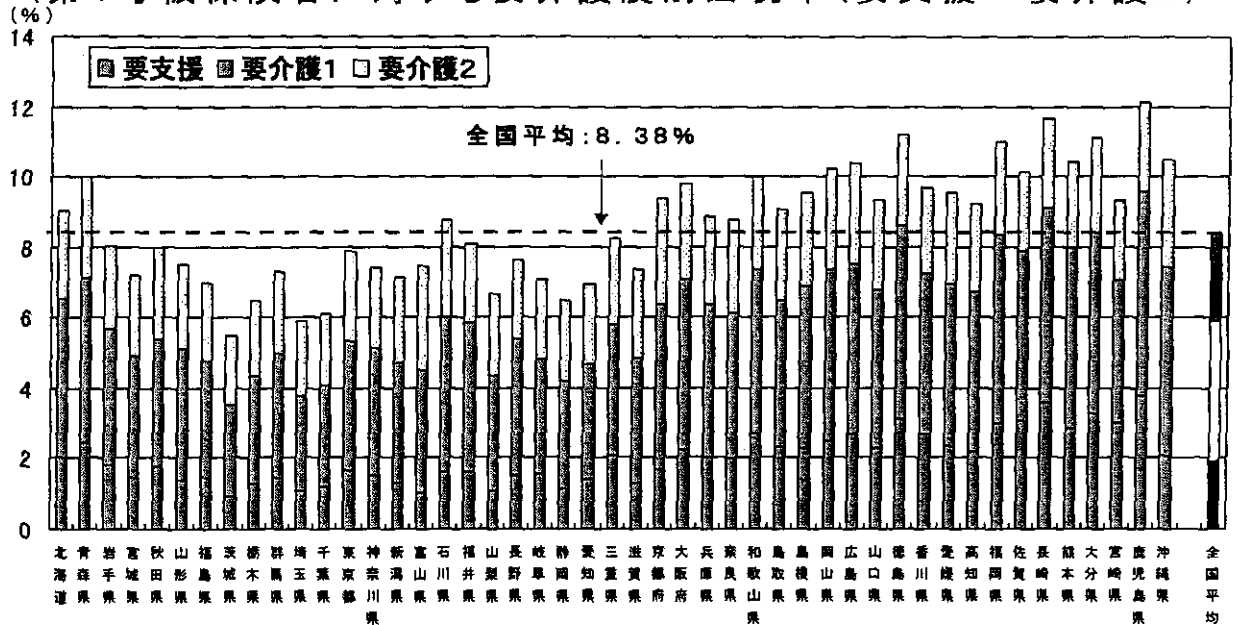
(第1号被保険者に対する受給者割合)



(出典:介護保険事業状況報告(2002年9月サービス分))

○ 要介護度の低い認定者の出現率にも、地域格差がある。

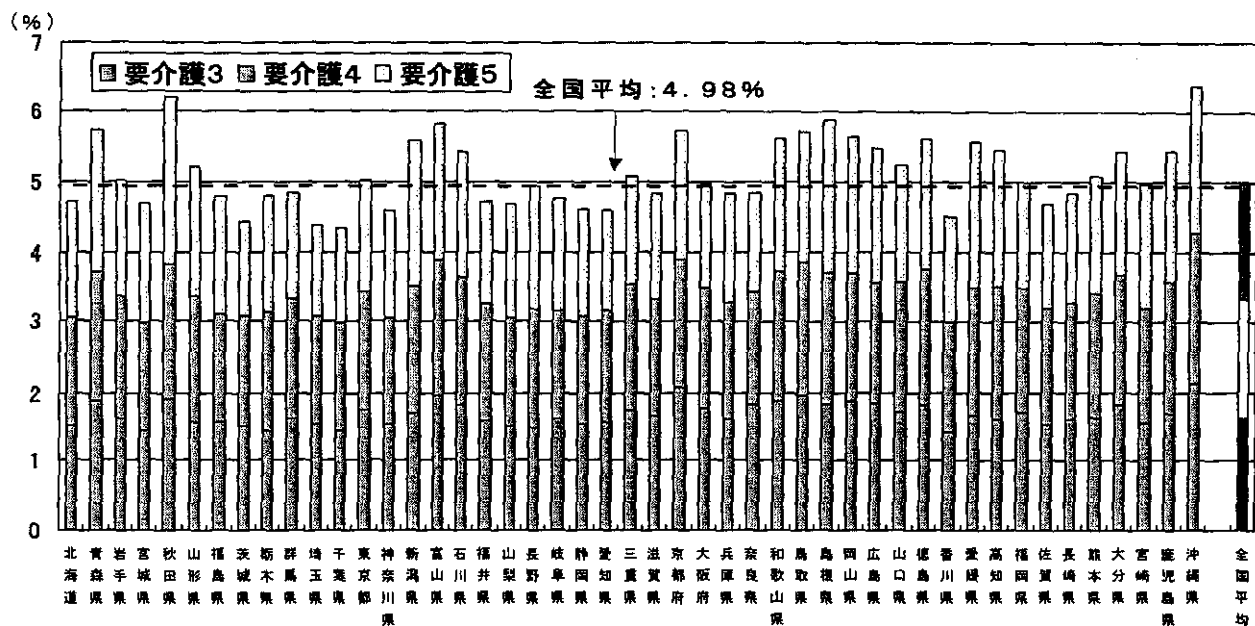
(第1号被保険者に対する要介護度別出現率(要支援～要介護2))



(出典:介護保険事業状況報告(2002年9月末))

○ 要介護度の高い認定者の出現率は、地域格差が小さい。

(第1号被保険者に対する要介護度別出現率(要介護3～要介護5))



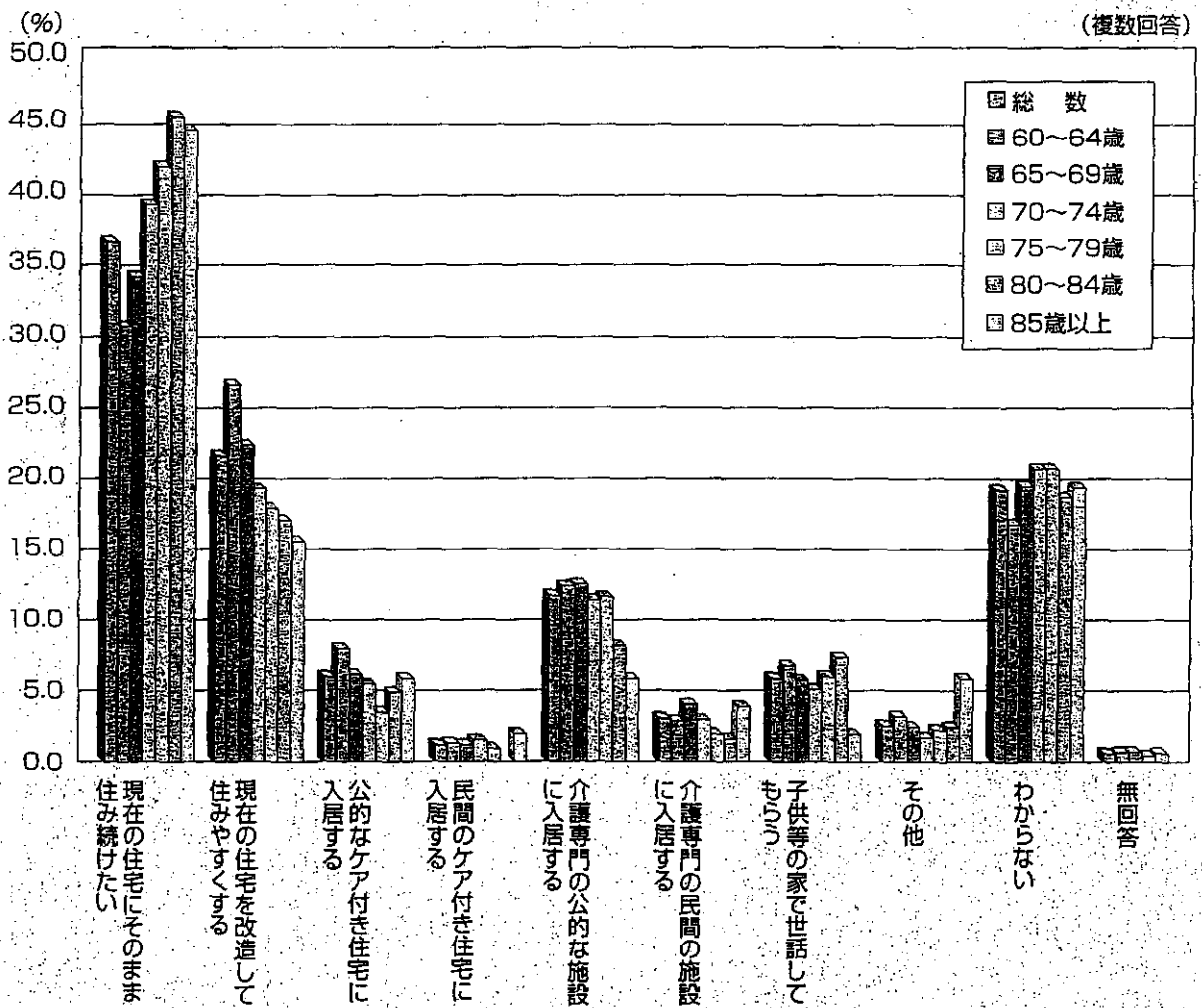
(出典:介護保険事業状況報告(2002年9月末))

特別養護老人ホームへの入所について

(1) 虚弱化したときに望む居住形態

- 現在の住宅にそのまま住み続けたい方が36.3%で最も高い。
- 介護専門の公的な施設に入所を希望する方は、1割程度(11.6%)。

(虚弱化したときに望む居住形態)



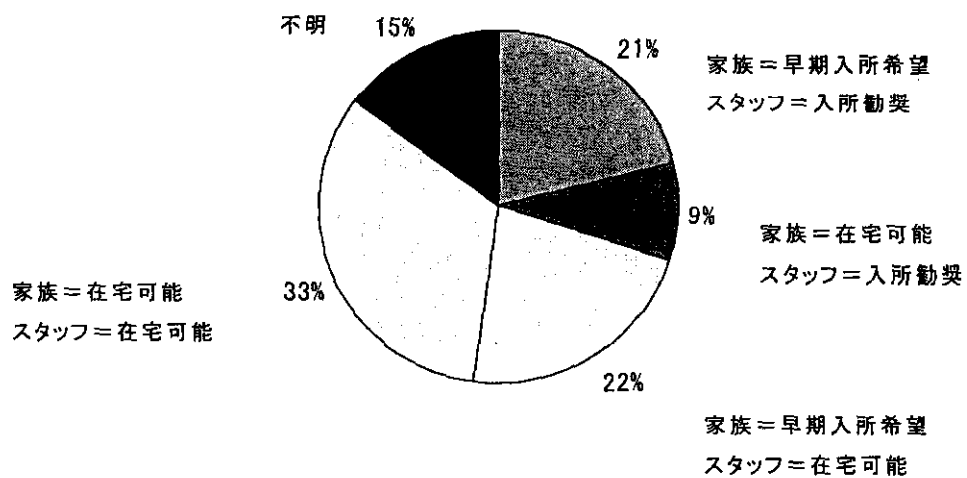
資料:内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」(平成13年)

(注)調査対象は、全国60歳以上の男女

(2) 入所申込者の緊急度

- 家族が早期入所を希望しており、施設スタッフも入所が望ましいと考えている申込者は、全体の約20%
- 家族も施設スタッフも在宅での療養が可能と考えている申込者は、全体の約30%

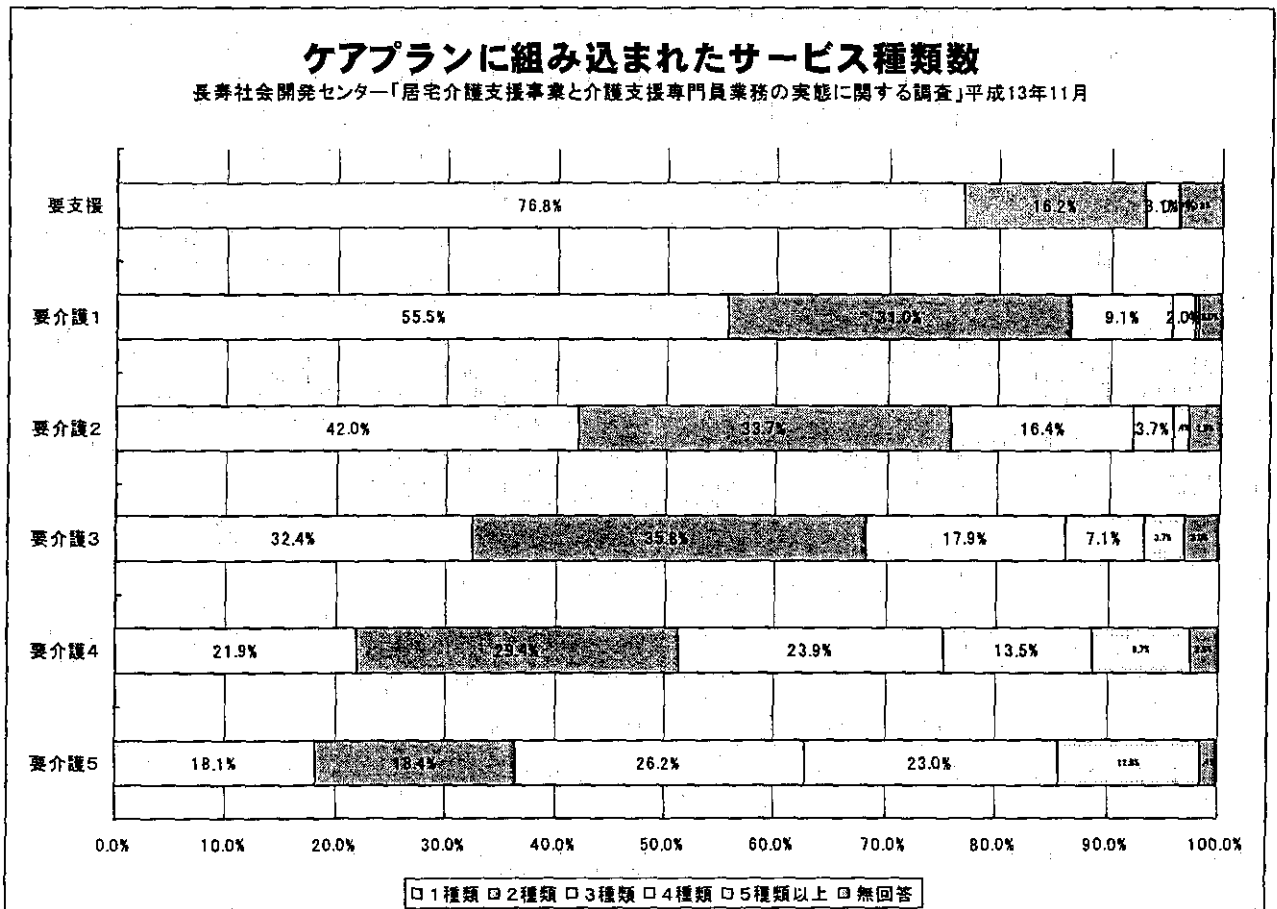
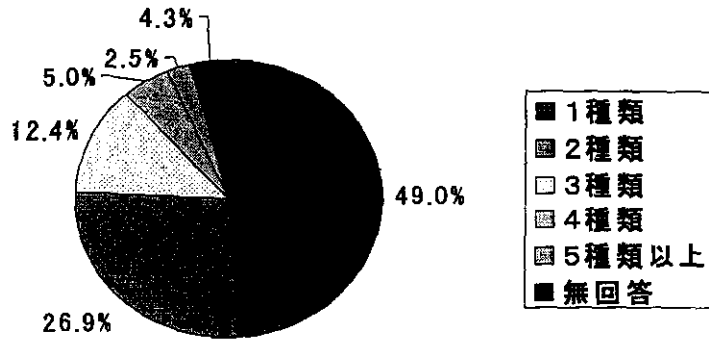
特別養護老人ホーム申込者(在宅)の入所緊急性一健保連調査 n=402人



ケアマネジメントの状況

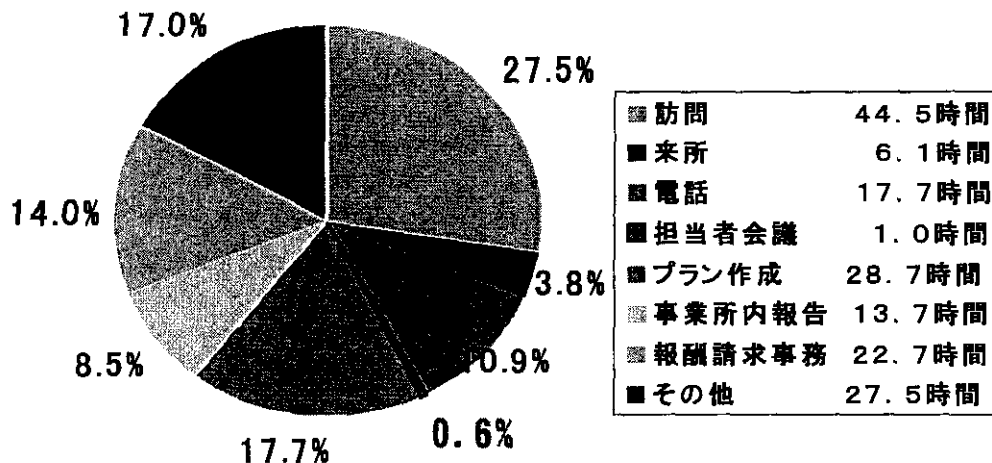
(1) ケアプランに組み入れられているサービス種類別の利用者割合

- 約半数が単品ケアプラン。
- 特に要支援では、単品ケアプランが75%以上を占める。



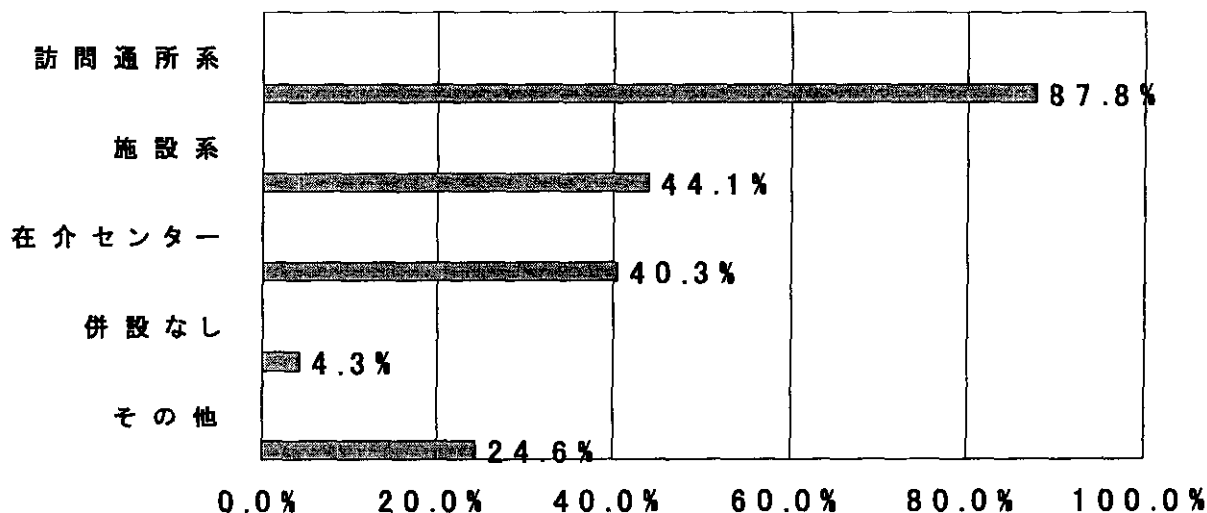
(2) 利用者1人あたりの労働投入時間の配分

- 報酬請求事務に多くの時間を割かれる一方、担当者会議に十分な時間が割かれているとは言い難い状況にある。



(3) ケアマネジメント機関の状況

- 90%近くが訪問通所系サービスを併設している。
- 単独事業所の割合は、5%未満となっている。



出典：(財) 長寿社会開発センター「居宅介護支援事業及び介護支援専門員業務の実態に関する調査」(平成13年)

介護サービス事業者の状況

(1) 介護サービス事業者の数

	2002年1月末	2003年1月末	増加率
訪問介護	14,671	16,975	15.7%
訪問入浴介護	2,834	2,882	1.7%
訪問看護	59,193	62,421	5.5%
訪問リハビリテーション	45,823	49,068	7.1%
通所介護	9,727	11,254	15.7%
通所リハビリテーション	5,658	5,800	2.5%
短期入所生活介護	4,998	5,258	5.2%
短期入所療養介護	6,621	6,800	2.7%
痴呆対応型共同生活介護	1,539	2,608	69.5%
特定施設入所者生活介護	387	518	33.9%
居宅療養管理指導	136,159	141,266	3.8%
福祉用具貸与	5,741	6,708	16.8%
居宅介護支援事業者	23,100	24,853	7.6%
介護老人福祉施設	4,722	4,917	4.1%
介護老人保健施設	2,814	2,918	3.7%
介護療養型医療施設	3,812	4,011	5.2%

(出典：WAM-NET)

(2) 経営主体別事業所数

	社会福祉法人	地方公共団体	医療法人	営利法人	合計
訪問介護	5,120	260	1,428	7,029	15,612
訪問看護	672	1,364	13,476	595	61,242
通所介護	6,933	843	717	1,337	10,412
短期入所生活介護	4,603	437	29	23	5,104
グループホーム	687	25	535	684	2,081
特定施設	77	1	3	329	451

※ 平成14年8月現在。その他を省略しているため、合計は一致しない。

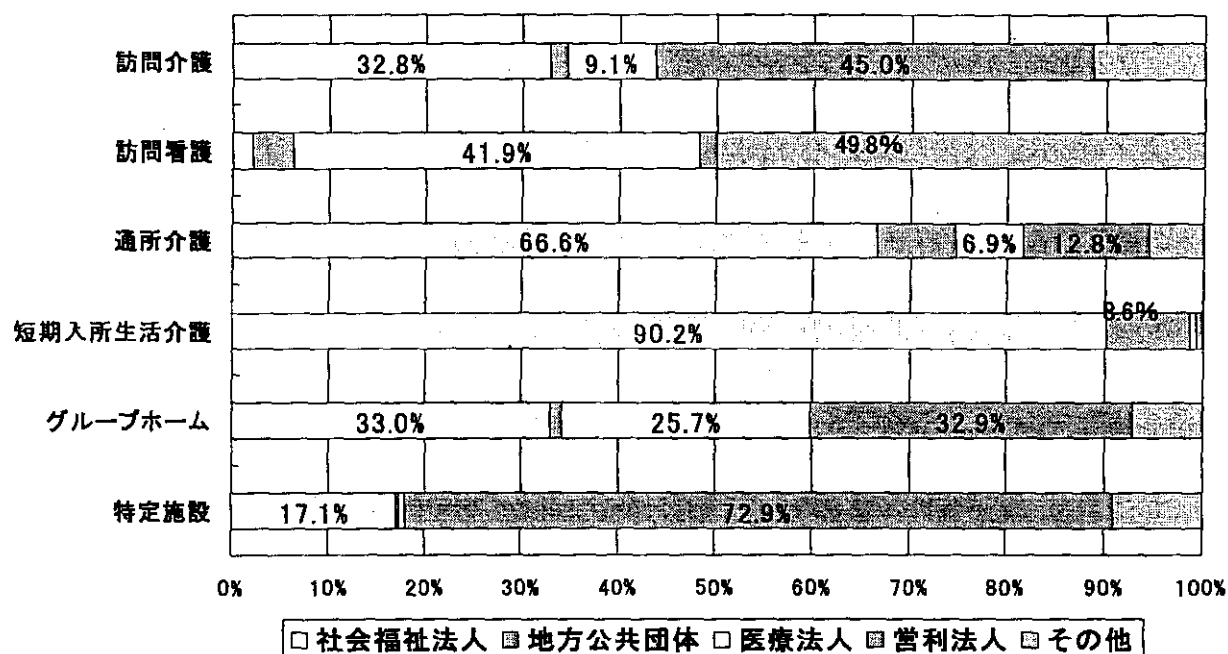
(3) 経営主体別構成割合

	社会福祉法人	地方公共団体	医療法人	営利法人	その他
訪問介護	32.8%	1.7%	9.1%	45.0%	11.3%
訪問看護	2.10%	4.2%	41.9%	1.8%	49.9%
通所介護	66.6%	8.1%	6.9%	12.8%	5.6%
短期入所生活介護	90.2%	8.6%	0.6%	0.5%	0.2%
グループホーム	33.0%	1.2%	25.7%	32.9%	7.2%
特定施設	17.1%	0.2%	0.7%	72.9%	9.1%

※ 平成14年8月現在。

※ 訪問看護については、法人種別不明のものを除いて計算している。

介護サービス事業者の経営主体別事業所割合

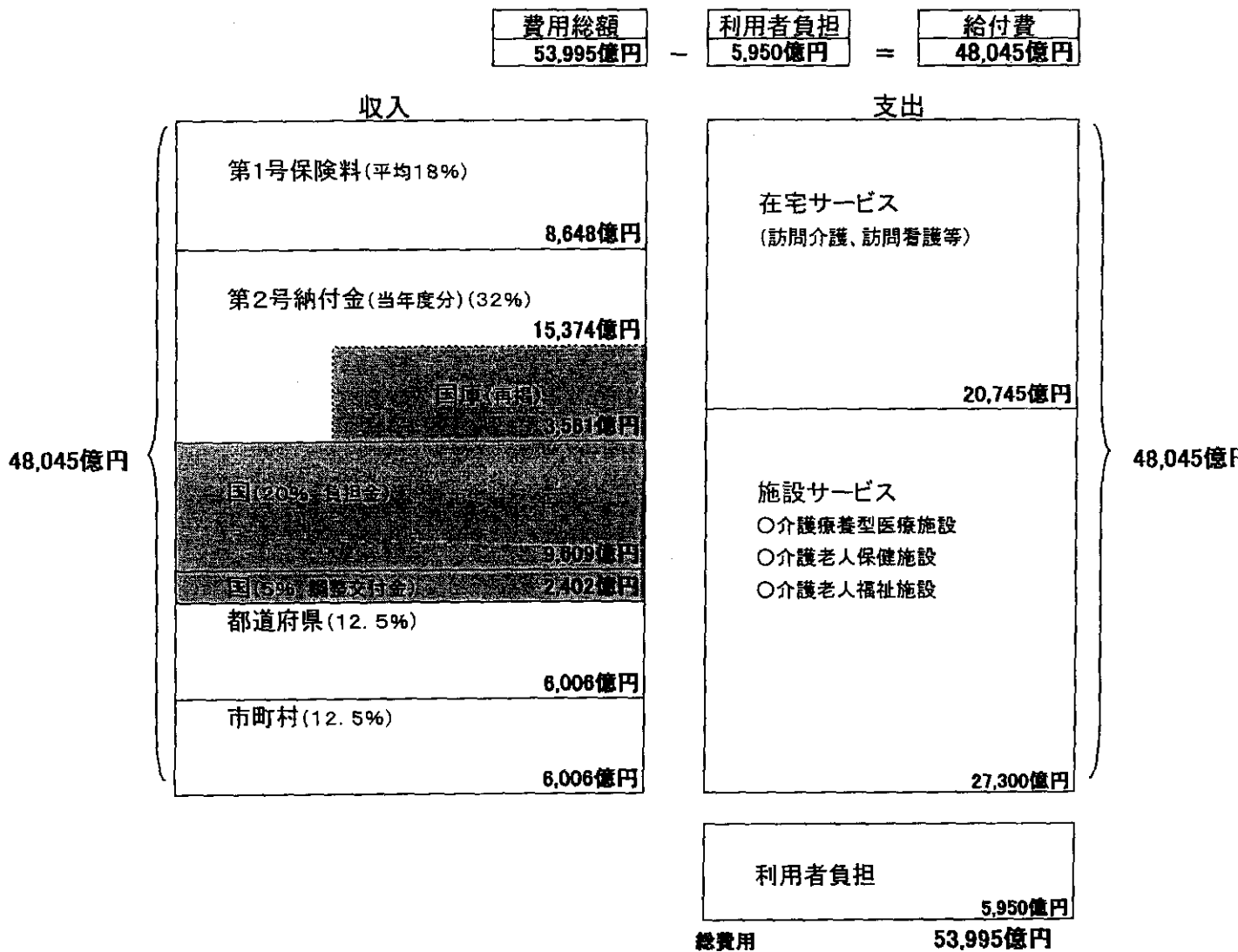


介護保険財政の状況について

○介護保険の総費用・給付費の推移

・総費用						
12年度	→	13年度	→	14年度	→	15年度(予算案)
3.6兆円		4.8兆円		5.1兆円		5.4兆円
※(11ヵ月分)						
・給付費						
12年度	→	13年度	→	14年度	→	15年度(予算案)
3.2兆円		4.2兆円		4.5兆円		4.8兆円
※(11ヵ月分)						

○平成15年度予算案における費用構造



- ※ 数字は、それぞれにおいて四捨五入しているため、合計において一致しない。
- ※ 第1号保険料は、平成15年度の給付費に充てられる額を計上。
- ※ 第2号納付金はこの他に精算分として△295億円(国庫負担(再掲)△31億円)がある。

○将来推計

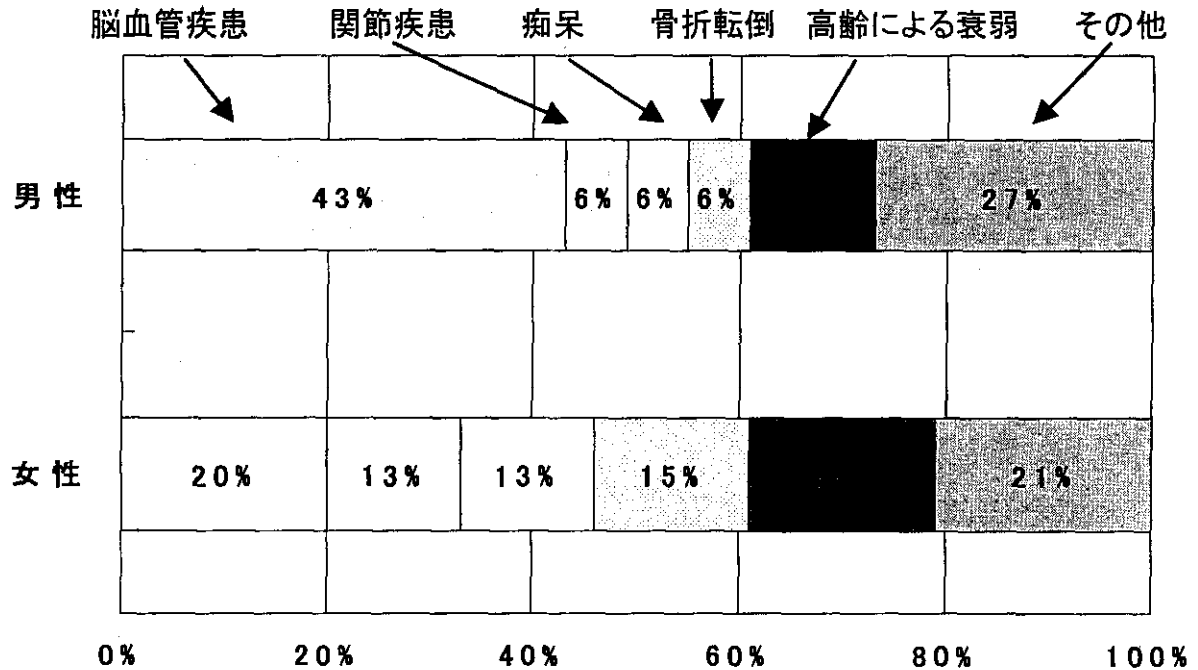
- ・ 2025年(平成37)年度までに、金額で4倍、対国民所得比で3.5倍に増加
- ・ 社会保障給付費に占める割合も大幅に増加

(介護給付費) 14年度(予算)	→	2005(平成17)年度 6兆円	→	2010(平成22)年度 8兆円	→	2025(平成37)年度 20兆円
(介護給付費) 14年度(予算)	→	2005(平成17)年度 1.0%	→	2010(平成22)年度 2.0%	→	2025(平成37)年度 3.5%
(対国民所得比) 14年度(予算)	→	2005(平成17)年度 1.5%	→	2010(平成22)年度 2.0%	→	2025(平成37)年度 3.5%
(社会保障給費比に占める割合) 14年度(予算)	→	2005(平成17)年度 6.6%	→	2010(平成22)年度 7.3%	→	2025(平成37)年度 11.4%
(社会保障給費比に占める割合) 14年度(予算)	→	2005(平成17)年度 6.1%	→	2010(平成22)年度 7.3%	→	2025(平成37)年度 11.4%

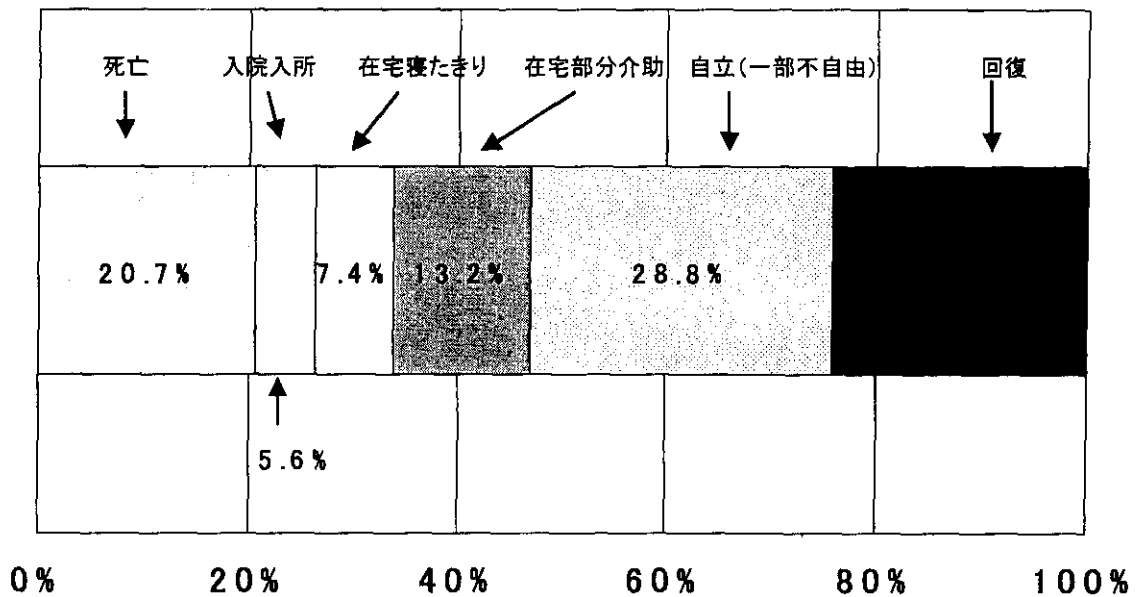
介護予防について

(1) 介護が必要となる原因

- 脳血管疾患を原因に介護が必要となるケースが多い。



- 年間約23万5千人の方が脳卒中を発症する。
- 発症後1年後に、施設や在宅での介護が必要となる方は、全体の約25%



(2) 所在地別の要介護度の変化

○ 平成12年10月から平成13年10月までの間で、

要介護度が、

改善した方：12.7%

維持の方：54.6%

悪化した方：32.7%

寝たきり度が、

改善した方：6.5%

維持の方：71.5%

悪化した方：22.0%

痴呆の程度が、

改善した方：12.2%

維持の方：64.2%

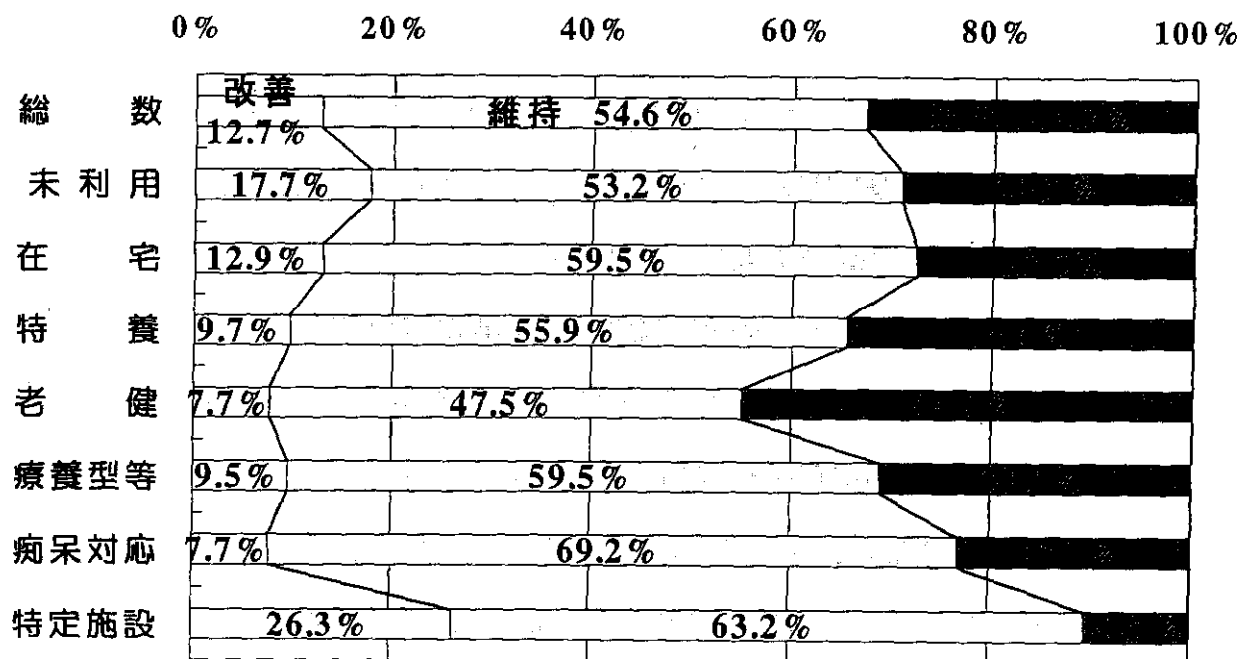
悪化した方：23.6%

○ 「介護保険3施設」よりも「在宅」の方が悪化率は低い状況。

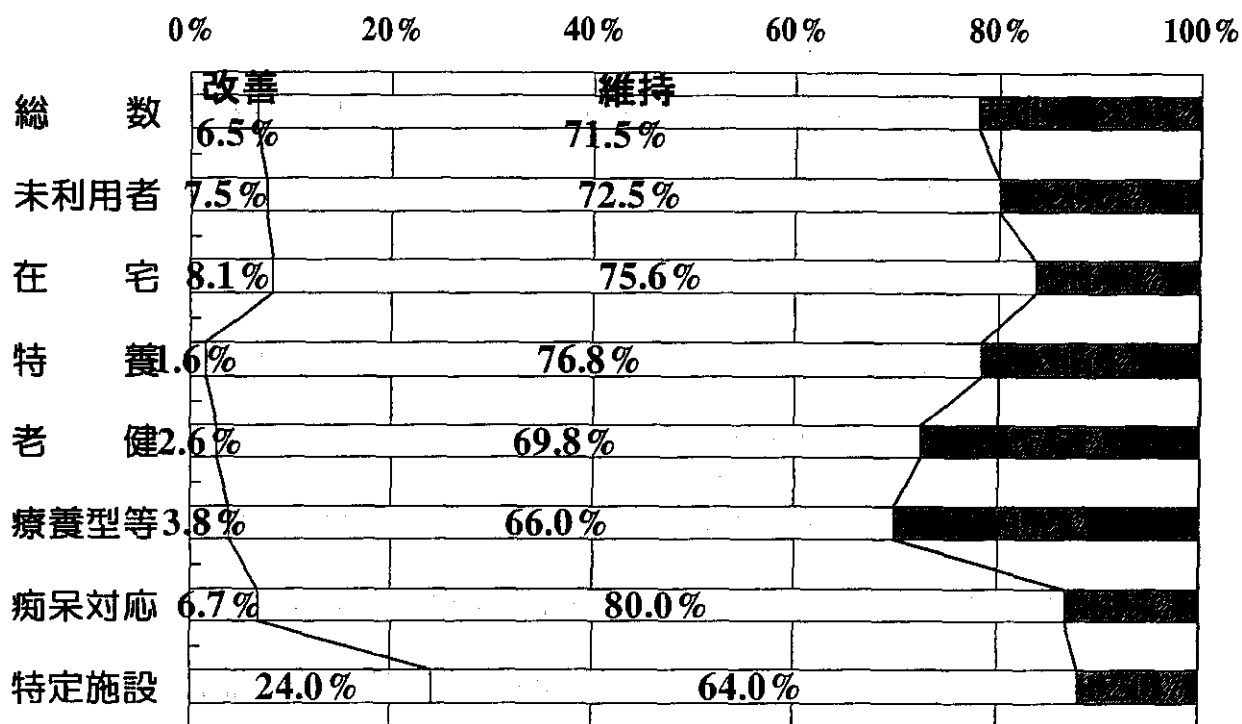
○ グループホームでは、他の所在地に比べ、痴呆度の悪化率が低く、改善率は高い状況。

※ 日医総研川越雅弘氏の調査研究。モデル保険者（松江広域、出雲市、瑞穂町）の要介護認定者のうち、所在地不変者4,105人を対象に分析。

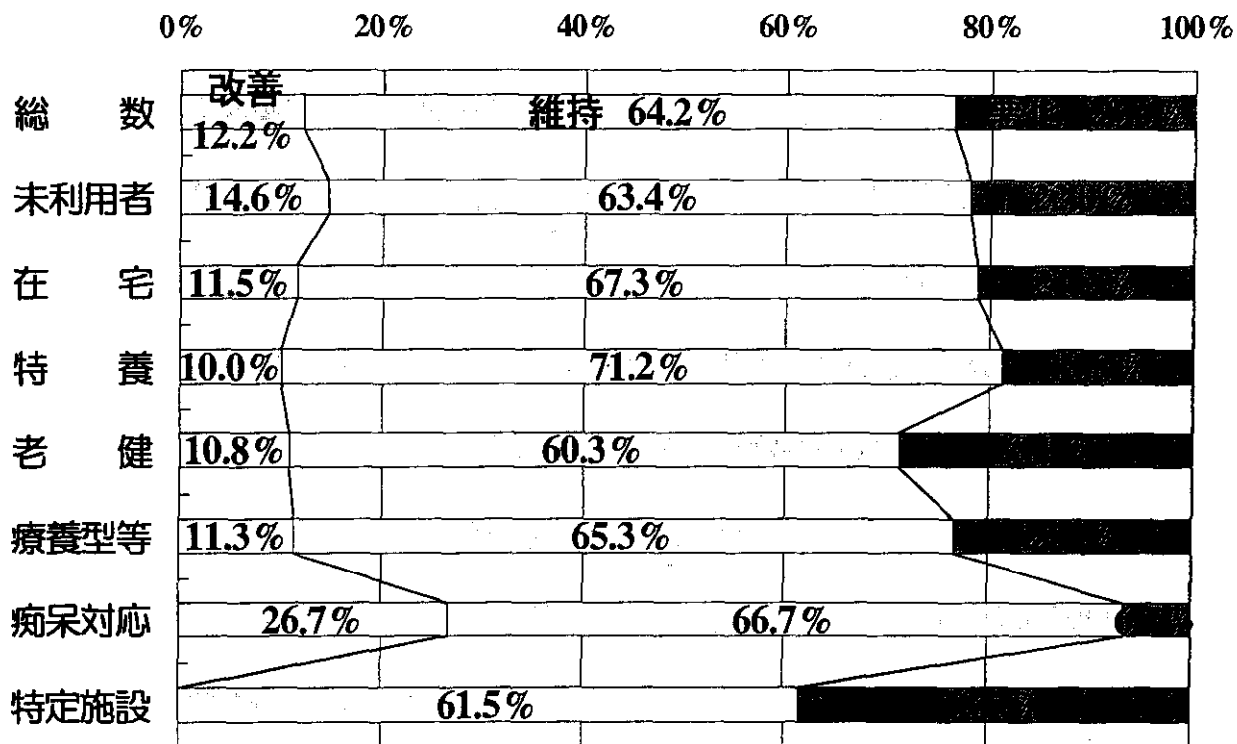
所在地別にみた要介護度改善／維持／悪化率の状況



所在地別にみた寝たきり度改善／維持／悪化率の状況



所在地別にみた痴呆度改善／維持／悪化率の状況



(3) 機能の段階的な障害

○ 各種機能が障害されていくプロセスには特徴がある。

自立 → 要支援 : 「立ち上がり」、「片足での立位保持」等が、

要支援 → 要介護1 : 「歩行」「洗身」等が、

要介護1 → 要介護2 : 「上衣の着脱」等が、

要介護2 → 要介護3 : 「移乗」「口腔清潔」等が、

要介護3 → 要介護4 : 「食事摂取」等が、

要介護4 → 要介護5 : 「嚥下」「場所の理解」等が特徴的

○ これらの機能が段階的に障害されていく。

※ 日医総研川越雅弘氏の調査研究。松江広域の平成14年10月時点の要介護認定者5,131人を対象に分析。

要介護度別にみた“自立”以外の該当者割合

(50%以上の上位、H14.10時点:要支援～要介護2)

	要支援 (N=607)		要介護1 (N=1,445)		要介護2 (N=904)	
	項目名	該当率 (%)	項目名	該当率 (%)	項目名	該当率 (%)
第1位	立ち上がり	86.0	歩行	68.7	薬の内服	83.8
第2位	両足つかない座位	77.1	起き上がり	66.0	ズボン等の着脱	69.1
第3位	居室の掃除	76.4	つめ切り	62.3	上衣の着脱	65.3
第4位	片足で立位保持	65.4	左下肢麻痺	62.1	ひどい物忘れ	61.5
第5位			右下肢麻痺	60.3	靴下の着脱	59.6
第6位			家庭内浴槽出入り	60.1	ボタンかけはずし	59.4
第7位			洗身	58.0	排尿後の後始末	56.0
第8位			金銭の管理	57.0	寝返り	50.0

(50%以上の上位、H14.10時点:要介護3～要介護5)

	要介護3 (N=629)		要介護4 (N=730)		要介護5 (N=816)	
	項目名	該当率 (%)	項目名	該当率 (%)	項目名	該当率 (%)
第1位	口腔清潔	80.4	尿意	76.6	嚥下	79.4
第2位	排便後の後始末	83.0	便意	71.9	膝関節の拘縮	76.6
第3位	洗顔	73.8	意思の伝達	70.8	場所の理解	72.9
第4位	両足で立位保持	69.5	食事摂取	70.3	生年月日の理解	68.4
第5位	整髪	68.2	季節の理解	63.8	肩関節の拘縮	68.1
第6位	移乗	63.8	周りへの無関心	59.7	左上肢麻痺	66.9
第7位	日課の理解	60.9			右上肢麻痺	66.1
第8位	両足ついで座位	59.5			股関節の拘縮	62.7
第9位	指示への反応	56.4			足関節の拘縮	57.7
第10位	短期記憶	53.9			肘関節の拘縮	55.3
第11位					名前の理解	52.5
第12位					聴力	51.0
第13位					視力	50.5

(4) 要介護度別にみた低下しやすい機能

○ 機能が低下しやすい項目は、

要支援 : 「居室の掃除」「歩行」等

要介護1 : 「洗身」「ズボン等の着脱」等

要介護2 : 「靴下の着脱」「移乗」等

要介護3 : 「排便後の後始末」「排尿後の後始末」等

要介護4 : 「食事摂取」等

要介護5 : 「意思の伝達」「嚥下」等

※ 日医総研川越雅弘氏の調査研究。松江広域における平成13年10月から平成14年10月の継続利用者の5,131人を対象に分析。

要介護度別にみた機能低下率の高い項目（上位10項目）

（平成13年10月から平成14年10月までの比較：要支援～要介護2）

	要支援（N=737）		要介護1（N=1,567）		要介護2（N=928）	
	項目名	低下率（%）	項目名	低下率（%）	項目名	低下率（%）
第1位	居室の掃除	16.1	つめ切り	17.9	靴下の着脱	23.4
第2位	つめ切り	15.5	洗身	16.7	排便後の後始末	23.3
第3位	家庭内浴槽出入り	14.9	家庭内浴槽出入り	16.1	上衣の着脱	22.4
第4位	歩行	13.0	ズボン等の着脱	15.2	ズボン等の着脱	22.0
第5位	洗身	13.0	靴下の着脱	14.9	ボタンかけはずし	21.7
第6位	両足つかない座位	12.1	排尿後の後始末	14.2	排尿後の後始末	21.3
第7位	ひどい物忘れ	11.7	ボタンかけはずし	13.5	整髪	17.8
第8位	起き上がり	11.1	金銭の管理	13.5	移乗	16.2
第9位	片足で立位保持	11.0	上衣の着脱	13.3	両足ついで座位	15.8
第10位	薬の内服	10.7	両足つかない座位	13.0	口腔清潔	15.3

（平成13年10月から平成14年10月までの比較：要介護3～要介護5）

	要介護3（N=602）		要介護4（N=618）		要介護5（N=679）	
	項目名	低下率（%）	項目名	低下率（%）	項目名	低下率（%）
第1位	排便後の後始末	26.2	食事摂取	23.3	意思の伝達	15.5
第2位	排尿後の後始末	23.3	両足ついで座位	17.5	他の皮膚疾患	12.5
第3位	移乗	22.3	尿意	17.3	嚥下	12.1
第4位	整髪	21.6	口腔清潔	16.3	片手胸持ち上げ	11.2
第5位	両足ついで座位	21.4	移乗	16.0	家庭内浴槽出入り	11.2
第6位	ボタンかけはずし	20.6	便意	16.0	聴力	11.0
第7位	食事摂取	19.6	寝返り	15.2	視力	10.8
第8位	靴下の着脱	19.4	整髪	14.7	両足ついで座位	10.5
第9位	ズボン等の着脱	18.6	他の皮膚疾患	14.4	尿意	10.3
第10位	便意	18.3	排尿後の後始末	14.4	指示への反応	10.0